



平成29年10月20日

各 位

会社名 日本 P C サービス 株式会社
代表者名 代表取締役社長 家 喜 信 行
(コード番号:6025 名証セントレックス)
問合せ先 取締役 管理部長 山 本 由 貴
(TEL 06-6734-7722)

特別損失、特別利益の計上及び業績予想と実績値との差異に関するお知らせ

当社は、本日発表の平成 29 年 8 月期の決算において、下記のとおり、特別損失及び特別利益を計上いたしましたのでお知らせいたします。あわせて、平成 29 年 7 月 20 日に公表いたしました連結業績予想と実績値において差異が生じたのでお知らせいたします。

1. 特別損失及び特別利益について

(1) (個別・連結) 減損損失の計上

当社は、2 期前から営業損失が継続しており、減損の兆候が認められることから「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、将来の回収可能性について、監査法人との協議を重ね慎重に判断した結果、当社が保有しているソフトウェア等の固定資産について減損処理を行い、減損損失 82 百万円を計上いたします。

(2) (個別) 関係会社株式評価損・貸倒引当金繰入額の計上

当社の連結子会社である V SYSTEM. PED LTD (以下、「V SYSTEM 社」という。)について、シンガポールでの個人向け駆けつけサポート事業を開始し、当社サービスのアジアでの拡充に取り組んでおり、収益確保のため同社が従来から強みとしている日本人向け保守サービス、販促用アプリ制作等の強化をおこなっておりますが、V SYSTEM 社が債務超過であり、株式の実質価格が著しく低下しており簿価まで回復するかは不明であるため、現在の財政状態及び経営成績を勘案した結果、「金融商品に関する会計基準」に基づき、当社が保有する V SYSTEM 社株式について、関係会社株式評価損 10 百万円を計上いたします。あわせて、当社は V SYSTEM 社に対する貸付について 1 百万円の貸倒引当金繰入額を計上いたします。

なお、関係会社株式評価損および貸倒引当金繰入額は個別財務諸表のみで計上されるものであり、連結決算においては相殺消去されるため、連結損益への影響はありません。

(3) (連結) のれん償却額の計上

上記(2)の計上により、連結では当社の連結子会社であるV SYSTEM社の取得の際に発生したのれんについて、個別決算における関係会社株式の減損処理に伴い、同社にかかるのれんを一括償却し、のれん償却額6百万円を計上いたします。

(4) (連結) 顧客紹介手数料収入の計上

当社は、平成29年6月からフィールドサポート事業の法人および個人顧客へのアフターフォローの一環として、複合機やネット回線などの商材紹介を行い、紹介顧客件数に応じて提携先企業から手数料を受けております。本手数料について、契約形態などを踏まえて弁護士と協議をおこなった結果、業績予想では売上高と見込んでおりましたが、平成29年8月期については顧客紹介手数料収入19百万円として特別利益に計上いたします。

2. 連結業績予想数値と実績値との差異 (平成28年9月1日～平成29年8月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	3,627	△26	△25	△27	△20.58
実績値 (B)	3,527	△43	△41	△103	△77.80
増減額 (B-A)	△100	△16	△16	△76	
増減率 (%)	△2.8	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成28年6月期)	3,925	△79	△75	△187	△141.54

3. 差異の理由

(1) 連結営業損失及び連結経常損失の差異について

当社の主力事業であるフィールドサポート事業について、1顧客あたり単価は改善したものの、提携先企業からの送客が想定以上に減少したため売上件数がのびず、Web広告などで集客した顧客へのサポートサービス売上および物販売上に注力したものの、当初予測より売上高が下回り、売上原価および販売管理コストを吸収できなかったことにより

ます。
また、当初、「1.(4) (連結) 顧客紹介手数料収入の計上」に記載しております顧客紹介手数料収入について、売上高として見込んでおりましたが、契約形態などを踏まえて弁護士と協議をおこなった結果、業績予想では売上高と見込んでおりましたが、平成29年8月期については顧客紹介手数料収入19百万円として特別利益に計上いたします。

以上により、連結営業損失は前回予想値26百万円に対し17百万円下回り、43百万円

となり、連結経常損失は前回予想値 25 百万円に対し 16 百万円下回り、41 百万円となりました。

(2) 親会社株主に帰属する当期純損失の修正について

「1. (1) (個別・連結) 減損損失の計上」及び「1. (3) (連結) のれん償却額の計上」に記載のとおり、特別損失として固定資産の減損損失 82 百万円およびのれん償却額 6 百万円を計上いたしました。

一方、平成 29 年 7 月 20 日付で公表いたしました「通期業績予想の修正に関するお知らせ」で見込んでいた投資有価証券売却益について、修正時点における想定株価より、売却時の株価が高く推移したため、投資有価証券売却益が 10 百万円増加しました。また、「1. (4) (連結) 顧客紹介手数料収入の計上」に記載したとおり、特別利益として顧客紹介手数料収入 19 百万円を計上いたしました。

以上により、親会社株主に帰属する当期純損失は前回予想値△27 百万円に対し、△76 百万円下回り△103 百万円となりました。

以 上